

**This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

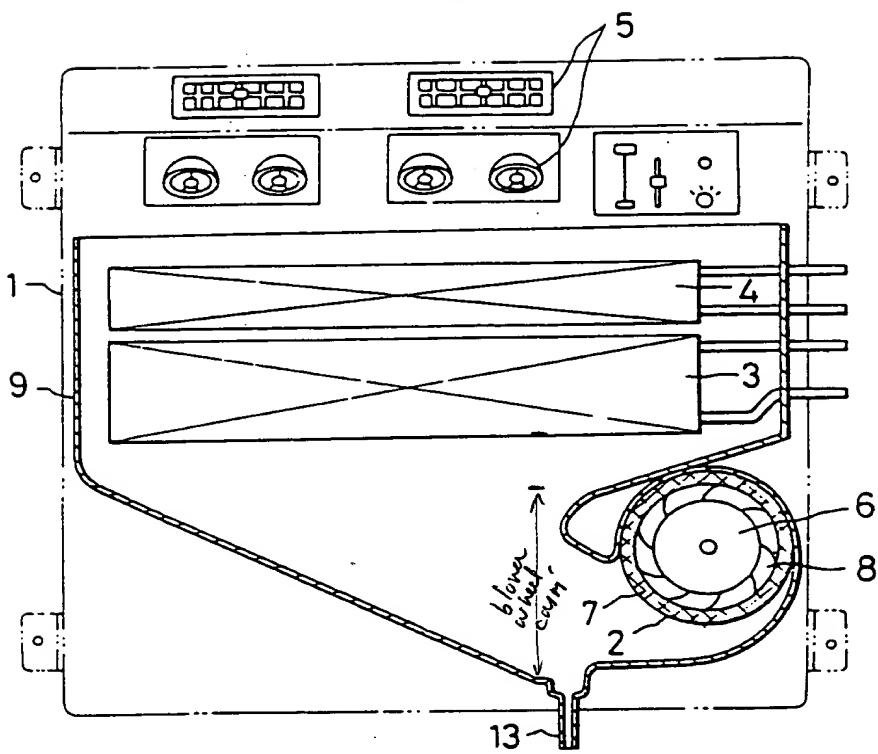
- **BLACK BORDERS**
- **TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- **FADED TEXT**
- **ILLEGIBLE TEXT**
- **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- **COLORED PHOTOS**
- **BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS**
- **GRAY SCALE DOCUMENTS**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

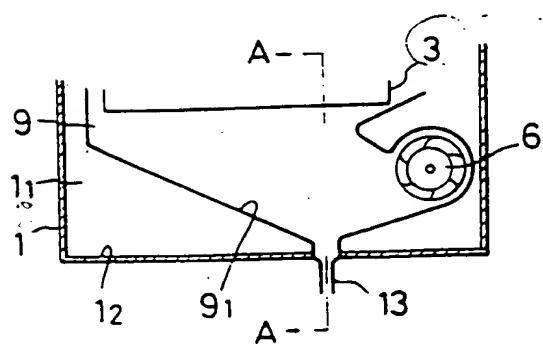
**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

56-149819

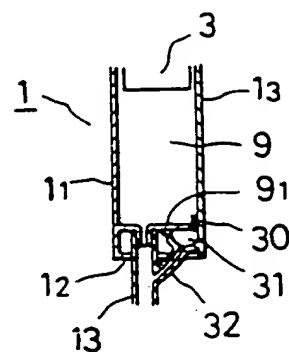
第1図



第2図



第3図



JP-U-56-149819

Within a case (1), an evaporator (3) is disposed at an upper side of a blower (6), a heater core (4) is disposed at an upper side of the evaporator (3), and air outlets (5) are provided at an upper side of the heater core (4).

公開実用 昭和56- 149819



(4,000円)

实用新案登録願 (B) 後れどん

昭和55年4月10日



特許庁長官 川原能雄

1. 考案の名称

クワキヨウワソウナ
空氣調和装置

2. 考案者

オオサトグンコウナムラオオザセントアイアガヒガシハラ
埼玉県大里郡江南村大字千代字東原39番地
キキ
デーゼル機器株式会社江南工場内
ヤナギ サワ ヨシ カズ
柳沢 義一

3. 實用新案登録出願人

東京都渋谷区渋谷3丁目6番7号

氏名(名称) デーゼル機器株式会社
モチツキカズシグ
代表者 望月一成
(国籍)



4. 代理人

人手107
東京都港区赤坂1丁目1番地17号
細川ビル1009
宮園国際特許事務所内
取(5861)473代表
氏名 (8029)弁理士宮園純一



5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通 (2) 図面 1通
(3) 説明書副本 1通 (4) 委任状 1通

明細書

1. 考案の名称

空気調和装置

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 一方側が開口するケース本体と、この本体の開口部を塞ぐ蓋体とより、ケースを形成し、このケース内に収納された送風機、エバボレータを包囲するドリップパンを、ケース本体の内面側より蓋体の内面側方向、又は蓋体の内面側よりケース本体の内面側方向に突出して、送風団、エバボレータとともに回繞する枠材と、ケース本体及び蓋体の内面側とで得られる空間により形成したこととを特徴とする空気調和装置。

(2) 枠材のケース本体との接合部又は蓋体との接合部を枝う樋部を設け、この樋部を介して上記接合部よりにじみ出た凝縮水を外部に放出するようにした実用新案登録請求の範囲第1項記載の空気調和装置。

(3) 樋部は蓋体と一体である実用新案登録請求の範囲第1項記載の空気調和装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は空気調和装置、特に送風機から送風される空気の流路を破るドリップパンに関するものである。

第1図に示すような空気調和装置においてケース1の内部には上部方向に沿って順次吸気口2、エバボレータ3、ヒータコア4、エヤ吹出口5及び送風機6が設けられ、上記吸気口2にはフィルタ7が固定され、このフィルタ7に対応する個所に送風機6のファン8が位置される。上記送風機6、エバボレータ3、ヒータコア4は一体にはほぼ全体がケース1内に収納されたドリップパン9で被われ、このパン9の下端からはドレーンパイプ10が突出する。パン9の送風機6が対向する下部はドレーンパイプ10の方向に傾斜している。

しかしながら、以上の構成によれば、エバボレータ3等をパン9内に組込んだ後パン9をケース1に組込むようにして装置として組立てるので、組立作業が繁雑となり、しかもエバボレータ等を組込む際パン9が損傷してクラックが発生し、こ

の部分から凝縮水が漏れるという欠点を有する。

従つて、本考案の目的はドリップパンとして、
ケースを構成するケース本体と蓋体との間にエバ
ボレータ等を埋継する枠材を介在させるようにし
て形成し、この枠材とケース本体又は蓋体との接
合部よりにじみ出る水分を好適に処理するよう
にして上記欠点を除去するものであり、以下実施例
を用いて詳細に説明する。

第2図、第3図は本考案による空気調和装置の一実施例を示す一部平面図及び断面図であり、第
1図と同じものは同一符号を用いている。

この場合、ケース1は外枠12を有し、かつエ
バボレータ等の収納空間が設けられたケース本体
11と、このケース本体11の開口部を塞ぐ蓋体
13より形成される。ケース本体11の内面側に
はドリップパン9を形成する枠材91が突出して
おり、この枠材91はケース本体11を例えばイ
ンジェクション成形する際同時に成形される。こ
のようなドリップパン9は、枠材91の開口部を
ケース1の蓋体13により塞いで形成するもので、

蓋体11の内面側と枠材91との間にはシール材30が介在され、これでドリップパン9の気密性を保持する。蓋体11の内面側からはシール材30の間隙を介してにじみ出る凝縮水を収容する槽部31が設けられ、この槽部31はL字状となり、先端が枠材91の外側面に接する如く成形されたもので、枠材91の全周に沿つて、あるいは枠材91の下部側に沿つて形成され、この槽部31の下部からは排水用のドレンパイプ32が突出し、このパイプ32の端部はドレンパイプ13に接続されている。

以上の構成によればエバボレータ3より滴下する凝縮水はそのほとんどがドレンパイプ13を介して外部に放出される。また、その一部がシール材30の間隙部分を介してにじみ出たとしてもこの水は槽部31に収納された後ドレンパイプ32からドレンパイプ13を介して外部に放出されるので、ケース1の外表面を常に清浄な乾燥状態に保つことができる。本考案によれば送風機6、エバボレータ3等をケース本体11内に設置

した後蓋体13を取付けるだけで装置として組立てることができるので、従来のようにドリップパンに送風機等を組込むという繁雑な手間を要せず、組立工数を低減でき、しかもコストを低くでき、また、ドリップパン14が損傷する恐れがなくなる。また、枠材91をケース本体11と一体化することにより、枠材91の組込み作業を省略でき、さらに組立工数を低減できる。

ここで、本実施例において、ドレンパイプ32はドレンパイプ13と一体化するものとして説明したが、一体化することなく独立してもよい。また、このドレンパイプ32の端部をドレンパイプ13に設けた孔に挿入するようにしてもよい。また、蓋体13の内面側に枠材91を設け、この枠材91とケース本体11の内面側とをシールを介して接合し、この部分を極部で被うようにしてもよい。

以上説明したようにパ考案によれば、ケース本体と、この本体の開口部を塞ぐ蓋体とよりケースを形成し、このケース内に収納された送風機、エ

公開実用 昭和56-149819

バボレータを包囲するドリッフハンを、ケース本体の内面側より蓋体の内面側方向又は蓋体の内面側よりケース本体の内面側方向に突出して送風機とエバボレータとを共に通路する枠材により形成するようにしたので組立工数の簡略化を図ることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、従来の空気調和装置の一例を示す簡略構成図、第2図、第3図は本考案による空気調和装置の一実施例を示す簡略構成図及び断面図である。

1…ケース、1₁…ケース本体、1₂…蓋体、
3…エバボレータ、4…ヒータコア、6…送風機、
9…ドリッフハン、9₁…枠材、13、32…ドレーンパイプ。

実用新案登録出願人 デーゼル機器株式会社

代理人弁理士 宮川純一